「友達が，だれも口をきいてくれないんです。」
→「だれも口をきいてくれない…。」

この例では，教師が児童生徒の気持ちを十分に受け止め，感情を込めて繰り返すことで話の内容が確かめられ，自分の考え方や感情への「気付き」が深まり，客観的に自分を見つめることができるようになります。ただ機械的におうむ返しのように繰り返すことではありません。

～ 支えましょう ～ 《 支 持 》

「児童生徒の心情をわかりたい」という気持ちで接し，言葉はもちろんのこと，その背景にある感情を支えます。

「高校入試のことを考えると，勉強にも集中できなくて…。」
→「高校入試は，大きな心配事だよね。」

このように返されることにより，児童生徒は，自分の気持ちをわかってもらえたと思うようになり，教師への信頼感も増して落ち着きます。支持できない行為については，その行為に至った感情を支持するようにします。

～ 待ちましょう ～ 《 沈 黙 》

面接中に児童生徒が沈黙する場面が出てきます。その際は，話を無理に引き出そうとせず，沈黙の持つ意味をじっくりと考え，待つことが大切です。感じたことを口にしたり，その場の雰囲気を共有したりすることが必要です。

沈黙の意味

- 何をどう言っていいのか迷っている
- 言っていいかどうか迷っている
- 自分の心の中を整理している
- 話が一段落してホッとしている

また，面接に対しての拒否的な沈黙と考えられた場合は，「話したくない気持ちですか。」などと，児童生徒の真意を聴くことも必要です。